

アイステントインジェクトW(iStent inject W)について

★ 白内障と緑内障 ★

白内障とは、水晶体が濁る目の病気です。水晶体は透明で柔軟な組織で、眼の中では前の方に位置し、レンズの役割をしています。遠くや近くを見るときに焦点を網膜に合わせ、物が見えるようになります。白内障になると、水晶体は濁って光が通りにくくなるので、視力が低下します。また、濁るだけでなく、硬くなるため、焦点を合わせる力(調節力)が衰えます。治療は手術が原則です。白内障の進行を遅くする点眼薬はありますが、濁りを回復することはできませんので、手術によって濁った水晶体を取り除き、代わりに透明な人工のレンズ(眼内レンズ)を挿入します。白内障以外に視力が低下する病気がなければ、術後、視力は回復します。

緑内障とは、眼圧が許容範囲を超えて上昇したために、視神経が圧迫され、萎縮し、その分、視機能が低下する病気です。視機能とは、視力だけでなく、視野も重要です。眼圧上昇を抑えるために、通常は点眼薬を使用しますが、複数の点眼薬や内服薬、あるいはレーザー手術を行っても眼圧が十分に下がらない場合は、外科手術を行うことがあります。緑内障の外科手術には、流出路再建術(もともと目の中の房水の流れを改善する)、濾過手術(目に小さな穴を開けて房水を外に流し、眼圧を下げる)、インプラント手術(特殊な管を目に差し入れて房水を流し、眼圧を下げる)があります。緑内障は手術をしても一旦生じた視機能障害は回復しません。それ以上悪くしない、あるいは進行を遅らせることが手術で得られる効果です。

眼の病気は一人一つだけ、とは限りません。緑内障で治療中の方が、年齢相応の白内障になることは珍しくありません。



旧型の
アイステント



新型の
アイステント・インジェクトW

★ アイステント ★

アイステントは、「眼内ドレーン」と呼ばれる金属製の微細な管で、2017年に日本で使用が承認された旧型(アイステント)のものと、2019年末に承認された新型のものがあり、新型を「アイステント・インジェクトW」と呼びます。承認されたものの、新型コロナウイルスの世界的拡大の影響や生産能力の関係で、本邦では2020年10月から手術による使用が可能となりました。アイステントを眼の中の「線維柱帯」という房水の出口に移植することで、房水の流れがスムーズになり、眼圧が下がること、あるいは緑内障の点眼薬を減らすことが期待されます。材質は医療用チタンでヘパリンコーティングされており、MRIやCT検査には支障ありません。

★ アイステント・インジェクトW手術の対象 ★

緑内障治療中で、白内障も合併している方が手術の対象となります。手術は白内障手術とアイステントの移植を同時に行います。アイステントを移植しても十分に眼圧が下がらない、あるいは点眼薬を減らすことができない場合は、追加で流出路再建術や濾過手術が必要となる場合があります。